

内 分 泌 内 科

1. 概要

内分泌内科は、ホルモンを作る内分泌臓器の障害により、ホルモン分泌の異常が起こった状態か、そのホルモンが作用する標的臓器の異常により、ホルモン作用の異常が起こった疾患を対象としています。主な疾患としては先端巨大症、クッシング病、プロラクチノーマ、下垂体機能低下症、尿崩症などの間脳下垂体疾患、バセドウ病、橋本病、甲状腺癌などの甲状腺疾患、原発性副甲状腺機能亢進症、骨粗鬆症などの副甲状腺・カルシウム代謝疾患、クッシング症候群、原発性アルドステロン症、褐色細胞腫、副腎癌、先天性副腎過形成などの副腎疾患、ターナー症候群などの性腺疾患、多発性内分泌腫瘍症などの遺伝疾患があります。これらの疾患に対して日本内分泌学会の診療ガイドライン作成に携わった、また厚生労働省の間脳下垂体機能障害に関する調査研究班（研究代表者）、副腎ホルモンに関する調査研究班（分担研究者）で活動している経験豊富なスタッフが診療、教育、研究を行っており、内分泌疾患におけるアンメット・メディカル・ニーズに対し、症例分析、臨床研究、基礎研究を行うことのできるPhysician Scientistを育成することを教育方針としています。

2. 指導スタッフ

- ・教授・基幹分野長、東京女子医科大学副病院長 大月 道夫
東京女子医科大学病院 内科専門研修プログラム統括責任者
内分泌代謝・糖尿病専門医統括責任者

臨床研修指導医

日本内科学会 認定内科医、認定内科専門医、研修指導医

日本糖尿病学会 専門医、研修指導医

日本内分泌学会 内分泌代謝科(内科)専門医、内分泌代謝指導医

内分泌代謝・糖尿病内科領域 研修指導医（領域指導医）

- ・名誉教授、東京女子医科大学病院長 肥塚 直美
常務理事、女性医療人キャリア形成センター長、病院長
日本内分泌学会 内分泌代謝科(内科)専門医、内分泌代謝指導医

3. 診療

- ・外来 2階北ブロック 月、水、木、金の午前
- ・病棟 第1病棟8階

4. 研修施設

- ・基幹施設：東京女子医科大学病院 内分泌内科
- ・連携施設：埼玉県済生会川口総合病院 糖尿病・内分泌内科

5. 研修、研修終了後に関して

初期研修終了し、内分泌内科学分野に入局後は、東京女子医科大学病院及びその関連施設において新しい内科専門医制度に準じた研修を行うと共に、糖尿病・代謝内科学分野と協力してサブスペシヤル領域「内分泌代謝・糖尿病内科領域」の連動研修を行い、内科

基本領域専門医取得だけでなく、「内分泌代謝・糖尿病内科領域」の専門医を最短の期間で取得できるようにします。また専門医取得後または卒後6年目には、できる限り東京女子医科大学病院内分泌内科学に戻ってもらい、内分泌内科医としての専門研修を行うと共に、症例分析、臨床研究、基礎研究を行う機会を提供し、Physician Scientistとしての基礎を身につけてもらうようにします。

6. 研究内容

内分泌内科学分野では、内分泌疾患におけるアンメット・メディカル・ニーズに対し症例分析、臨床研究、基礎研究を行うことのできるPhysician Scientistを育成することを教育方針とします。これまでに大月が行ってきた症例分析、臨床研究、核内受容体の基礎研究（①症例分析「糖尿病薬のヒドロコルチゾン吸収遅延による副腎クリーゼ」Diabetes Care, 2013、②新たな疾患概念の提唱「クッシング症候群術後TSH不適切分泌症候群」J Clin Endocrinol Metab., 2013、「アルドステロン正常原発性アルドステロン症」J Hypertens., 2017、③内分泌疾患診断の新たな指標「クッシング症候群診断におけるTSH ratio」Endocr J. 2018、④内分泌機能検査の新たな意義「先端巨大症のブドウ糖負荷時の成長ホルモン奇異反応の意義」J Clin Endocrinol Metab., 2019、⑤多施設共同研究によるエビデンス創出「原発性アルドステロン症における糖尿病合併の心血管疾患リスク」J Clin Endocrinol Metab., 2020、⑥核内受容体機能解析「脂肪細胞におけるグルココルチコイド受容体の意義」Endocrinology, 2019)を踏まえ、現在の内分泌疾患（特に下垂体疾患、副腎疾患）の診断・治療のunmet needsを明らかにし、未来の内分泌学を見据えた研究を行っていきたいと考えています。